

議 事 録 要 旨

会 議 名 称	令和2年度 第1回加古川市総合計画審議会（第3部会）
開 催 日 時	令和2年8月5日（水）午前10時00分から午前11時40分まで
開 催 場 所	勤労会館 2階201会議室
出 席 者	<p><委員></p> <p>部会長 三輪 康一</p> <p>副部会長 大庫 隆夫</p> <p>委員 柿本 和博、久保田 八平、達可 明朝、西 正勝</p> <p><加古川市></p> <p>企画部次長 神戸 生也 企画部参事 竹中 重夫</p> <p>産業経済部次長 山本 要 建設部次長 中務 裕文</p> <p>都市計画部次長 村津 雅淑 上下水道局次長 岸本 秀之</p>
会 議 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 議事</p> <p>（1）総合計画（原案）について</p> <p style="padding-left: 40px;">基本目標4 快適なまち（P78～87）</p> <p>（2）その他</p> <p>4 閉会</p>
会 議 資 料	<p>1 次第</p> <p>2 加古川市総合計画（原案）</p> <p>3 加古川市総合計画審議会委員名簿（部会別）</p>
傍聴者の数	0人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
（事務局）	<p>1 開会</p> <p>（委員の出席状況）</p> <p>（事務局）第3部会委員7名中6名が出席していることを報告</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 議事</p> <p><u>（1）総合計画（原案）について</u></p> <p>基本目標4 快適なまち</p> <p>政策（1）機能的・効率的なまちを形成する</p> <p style="padding-left: 40px;"><u>施策①計画的な土地利用</u></p> <p><事務局説明></p>

	(質疑応答)
(委員)	土地利用については、市の北部、とりわけ加古川北インターチェンジ付近をどのように活用できるかが、市の活性化のポイントになるのではないかと。例えば、大学のクラブ活動を誘致することが有効ではないか。四国では野球場を整備するなどして合宿誘致に力を入れていると聞く。加古川北インターチェンジ付近は交通利便性も高く、平荘湖周辺にかけての自然環境も良好であるため、宿泊施設の整備と合わせて取り組むことを検討してはどうか。
(委員)	北部については、過去に大きな施設整備をする計画があったように思うが、進展はあるのか。
(加古川市)	全国的にハイウェイオアシスの整備が盛んに計画されていた時期に、加古川北インターチェンジ付近においても大型の施設整備に関する構想があり、高速道路から直接利用できる施設について、平成の初期から計画してきたが、まだ完成に至っていない。 現在、NEXCOとも協議を重ねながら、令和6年度までに権現総合公園として整備を完了させるよう取り組んでいる。計画当時の整備範囲が非常に広大であるため、現在は規模を縮小して整備する形で進めている。
(加古川市)	本市は過去から南部は住宅が多く立地し、まとまった土地がない一方、北部は市街化調整区域ということもあり、広い土地が残っている。特に高速道路付近は産業用地に非常に適しているため、都市計画法をはじめとした関係法令の制限の中で、最大限活用できる方法を検討していこうとしている。しかしながら、工業団地の創出に不可欠な用水・排水などのインフラ整備や、山を切り出すことによる雨水排水をどうするか、土砂災害や洪水にも留意する必要がある。それらを踏まえ、活用可能性が高い土地について調査を進めようとしているところである。
(委員)	早急に取り組を進めてもらいたい。市として効果的と判断したものはどんどん進めていくべきである。取り組んでみて駄目なら、駄目で、次の手法を考えて実行すればいい。市がどんどん進めてもらえば市民は必ずついてくるはずである。
(委員)	土地利用を議論する際に災害リスクを踏まえておくことは全国的にも大きな課題となっている。山を開発することが悪いことではなく、リスクに十分配慮しながら土地活用をしていかなければならないという視点を追記することが望ましいのではないかと。 また、「産業系土地利用の推進」において自動車専用道路の記載があるが、道路整備がもたらす効果は産業のみならず、様々な形で地域の活性化

<p>(副部会長)</p>	<p>に寄与していくものである。現在、東播磨道北工区の建設を進めているほか、播磨臨海地域道路にも動きが出てきている。そのような大型幹線道路整備のインパクトを地域の活性化につなげる観点を、産業以外の分野にも波及できるよう記載できればよいのではないかと。</p> <p>加古川市を含め日本全体として産業構造を転換させる必要があるのではないかと。大企業に依存しては、企業の経営状況に自治体が大きな影響を受けてしまう。働く場の減少は人口の流出の一因である。若者の働く場をいかに創出していくかは人口減少を抑制する観点からも非常に重要であるため、東播磨道や播磨臨海地域道路の整備は大きな起爆剤とすべきである。新名神道路が整備された地域では、市街化調整区域に工業団地や物流拠点を形成し、大型の物流センターを誘致するなど、まちの変化は驚くべきものがある。特に物流におけるeコマースの台頭はすさまじく、大きな雇用を生んでいる。加古川市において、そのような雇用を生み出す産業を誘致できる場所は北部にしか残されていない。市は大胆に、危機感をもって取り組みを進めるべきである。</p>
<p>(事務局)</p>	<p style="text-align: center;">施策②都市拠点機能の充実</p> <p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
<p>(委員)</p>	<p>東加古川駅周辺の教育文化を中心としたまちづくりは非常によい考え方である。兵庫大学を拠点とした取組を展開してほしい。また、市内には農地が多くあるが、担い手がいないということも聞く。農業を専門的に学ぶ場があれば、若者が農業に携わる機会創出にもなり、新しい発想も芽生えるのではないかと。可能であるなら、兵庫大学に農学部を設置してもらいたいと考えている。</p>
<p>(副部会長)</p>	<p>駅周辺に関連して常々感じていることだが、大久保駅や西明石駅周辺はマンション群が形成されている。工場跡地など、開発が容易な状況であったこともマンションが多く立地した要因であると思うが、駅近接のマンションは非常に利便性が高い。それに比べ、市内の土山駅、東加古川駅、加古川駅、宝殿駅の周辺にはマンションが少ない。駅周辺にマンションが集積する状況をつくらなければ、人口が流出するのは当然である。</p> <p>また、加古川駅周辺において、民有地に動きがみられるものの、ビジネスホテルも休業してしまっている。民有地に市が関与することは難しいかもしれないが、原案に記載しているような「都市機能の効果的な誘導と集積を図る」ということをぜひ実現し、人口増加につなげてもらいたい。</p>

	施策③幹線道路・港湾機能の充実
(事務局)	<事務局説明>
	(質疑応答)
(委員)	東播磨港は、別府港、高砂港、伊保港、二見港で構成されているとのことだが、加古川市の総合計画においては、別府港と記載したほうが分かりやすいのではないか。
(委員)	別府港と限定してしまうと、公共の岸壁があるところを示すこととなってしまう。港としては、神戸製鋼をはじめとした民間企業の施設も含めての物流拠点である。港湾の整備促進というのは、公共団体が有する施設だけでなく、民間の機能も含めて考える必要がある。例えば、東播磨港の貨物取扱量については、公共部分だけではそれほど多くないが、民間施設をあわせると姫路港より多くなる。そういう点では、原案の「安全で快適な港湾施設の整備」という表現については、港が本来有する地域経済の下支えという部分に着目して、物流や産業用地の確保の観点からも、企業が元気に活動して、地域の活性化につなげるために東播磨港全体が重要な施設である、という視点で表現することが望ましいのではないか。
(副部会長)	民間企業の経済活動にとって道路や港は非常に重要なものである。近年道路整備が進んでいるが、完成が見えてきたのが東播磨道の北工区だろう。この道路が完成すれば、北部の人が市内に通勤しやすくなるため、企業の採用活動においても大きな効果が期待できると考えている。早期完成に向け取り組んでもらいたい。
	施策④公共交通機能の充実
(事務局)	<事務局説明>
	(質疑応答)
(委員)	バス路線の廃止や休止については、加古川市に限ったことではないものの、乗車人数がゼロに近く、人件費や燃料費すらまかなうことができない状況もあり、経営は非常に厳しいと言わざるを得ない。そのようなところをコミュニティ化し、かこバスやかこバスミニとして対応していこうとしている。また、明石市、姫路市、三田市などは大きな大学や高校が立地しており、学生だけの臨時便を出すほどだが、加古川市では学生利用がほと

	<p>んどないのが、一番厳しいところと考えている。乗務員不足に関する記載もあるが、そのあたりは個別の企業の問題であるため特筆する必要はないのではないかと。</p> <p>デマンド方式については、10月から稲美町で実施され、バス停が遠い方に対し、自宅からバス停までタクシーで送る方法である。最終目的地ではなくバス停まで、という運行でどれほど利用があるか未知数であるので、状況をよく見極められた方がよいのではないかと考える。</p>
(部会長)	<p>稲美町のデマンド方式は、加古川市が導入を検討している手法と同じものか。</p>
(加古川市)	<p>本市では、今年度、八幡町においてデマンド方式の実証実験を行う予定である。稲美町と異なり、八幡町内からJR加古川線厄神駅や県立医療センターを結ぶような形を検討している。バス停と違い鉄道駅であれば定時に電車が運行しているため、ある程度の利用は見込めるのではないかと考えている。</p>
(委員)	<p>JR加古川線をJR神戸線のように複線にできないか。</p>
(加古川市)	<p>複線になれば便数は増加すると思われるが、加古川駅から厄神駅間については、朝は30分に1本運行しており、便利な駅として利用者も一定数いる状態であるが、用地買収までして複線化するところまでは至らないと考えている。</p>
(副部会長)	<p>交通弱者というと、市の北部や駅から遠いところをイメージしがちであるが、市の中央部にも存在している。国道2号線を通り、加古川駅から東加古川駅を結ぶバスの便数が非常に少ないと感じている。かこバスは2号線の南側を通過して東加古川駅まで行くため、市の大動脈といえる道路がバスの空白地帯のようになってしまうことは望ましくないかと考える。行政としてもバス事業者への補助を行うなど、充実を図る必要があるのではないかと。会社としても採用活動の際、学生の交通手段がなく苦慮している。企業も協力できる部分があるかもしれないので、検討してもらいたい。</p>
(加古川市)	<p>コミュニティバスとしてのかこバス、かこバスミニについては、北部地域では公共交通空白地を解消する役割や南部では利便性を向上させる役割があると考えているが、現実的にはなかなか乗車いただけない状況であるため、バランスが難しい側面がある。</p> <p>また中央部については、人口密度は高いものの、平坦な地形もあり自転車利用が非常に多く、バス利用が伸びない状況である。利用していただけないため便数が増えない、便数が増えないから利用しにくい、という悪循環が生じている。そのような中で、かこバスについては、ある程度の利用</p>

	<p>者が見込めるような便数を確保しようと、神姫バスの協力のもと便数増の対応も行っている。今後とも可能な限り利便性の高い公共交通に向けて取り組んでいきたい。</p>
(副部会長)	<p>自動運転は今後必要になってくると考えている。例えば、加古川駅から市役所前を経由し鶴林寺まで行く周遊ルートを試行してみてもどうか。加古川市がバス会社と一緒に先進的な取組を行っているという発信もできるのではないかと。</p>
(委員)	<p>自動運転については、神姫バス三田営業所でテスト運行に取り組んでいる。私も視察したが課題は非常に多いと感じた。まず、走行速度が時速15キロメートルと非常に遅い。また、路上駐車のを避けることができず、補助者が手動運転する必要がある。自動運転なら運転手が不要になると思われがちだが、現在の技術ではまだまだ運転士の同乗が必要である。実現には時間を要すると考えている。</p>
	<p style="text-align: center;">政策（２）安全で快適な暮らしの基盤を整備する 施策①秩序あるまちなみの形成 施策②防災・防犯のための基盤の整備</p>
(事務局)	<p><事務局説明></p> <p>(質疑応答)</p>
(副部会長)	<p>先日、大雨の影響で熊本県の球磨川（くまがわ）流域が氾濫したが、同程度の大雨が降った場合、加古川の堤防は耐えることができるのか。</p>
(委員)	<p>加古川下流側の整備はかなり進んでいるが、球磨川が氾濫した際の具体的な雨量を確認したうえでシミュレーションをしてみないとわからない。河川の整備については、実績からその地域の雨量をある程度想定して行っているため、ある河川で氾濫した雨量だからといって、その他の河川が氾濫するとは限らない。</p> <p>しかしながら、ここ数年は異常な降雨が続いているので、対策はしっかりと考えていかなければならない。</p> <p>関連して意見を申しあげると、施策「防災・防犯のための基盤の整備」では、ハード整備についての内容を記載するという整理になっているかと思うが、実際の防災の対策はハード整備だけでは限界がある。この部会の所掌から外れることになるが、原案67ページの施策「危機管理体制の充実」としてソフト面の記載をしている中で、自然災害等に対する減災の取組についても記載できないか。現状の内容では、これまでの内容とそれほど変わらない記載で留まっているように思うので、最近の異常な降雨や自</p>

	<p>然災害を意識したものにする必要があるのではないか。</p>
(事務局)	<p>記載内容について、あらためて検討させていただく。</p>
(委員)	<p>市内のため池が少なくなっている中、これまでの雨量からは考えられない降雨が発生した場合のことを考えると非常に心配になる。</p>
(加古川市)	<p>ため池については、管理者にもご協力をいただきながら、台風や大雨が予想される場合には、事前のため池の水位を下げる対応を取らせていただいている。また、開発事業等で田が少なくなってくる傾向にはあるが、開発計画において一定規模の開発の場合は調整池を設けて一時貯留ができるような対策を取るようになっている。</p>
(副部会長)	<p>防犯に関して、東加古川は駅の南側に繁華街があり、お酒に酔った方や騒いでいる方を見かけたりするので、駅の北側に交番が移ったことが非常に疑問である。防犯の観点から、交番はこの場所に設置いただきたいと市から要請できないのか。</p>
(事務局)	<p>東加古川駅周辺の交番の設置場所について、当時の経緯は把握できていないが、加古川駅周辺については駅南広場を整備する際に、交番を南広場側に設置いただいたという経緯はあるので、可能な限り県警との連携も検討していきたい。</p>
(副部会長)	<p>移住を考える際には、必ず移住先の評判を確認すると思う。加古川市は比較的、県下でも犯罪が多いまちであると思うので、“安全・安心なまち”であるイメージを打ち出していけないと移住者は増えないと思う。</p>
(事務局)	<p>実際に犯罪発生件数が多いことは認識している。現在、見守りカメラ等の設置を進めてきた中で、犯罪発生件数は減少してきているので、引き続き取組を進め、イメージの払しょくにつなげたい。</p>
(委員)	<p>原案67ページの施策「危機管理体制の充実」において、1人で避難することが難しい方の避難を、どのようにさせるかは非常に大きな課題であるかと思うが、現在の記載では内容が読み取りにくいように感じたので、もう少し意識した記載にすべきではないかと思う。</p>
(副部会長)	<p>大阪北部地震を契機に、市内においてもブロック塀をすべてパネルの塀に設置し直した企業がある。これは、行政が支援してでも推進する必要があると思うが、現状はどうか。</p>
(加古川市)	<p>ブロック塀の解体や別のものへの転換については、基本的に設置管理者</p>

	<p>の責任となる。企業であれば自主的な判断で対応いただけることが多いが、個人の住居となると対応をいただける方は少ない状況である。そのため、補助制度を設けて周知も行っているところではあるが、なかなか進んでいない現状があるので、引き続き、啓発に力を入れていきたいと考えている。</p> <p style="text-align: center;"><u>施策③生活に身近な道路の整備</u> <u>施策④良質な住宅供給の促進</u> <u>施策⑤安全で良質な水道水の供給</u> <u>施策⑥雨水・汚水の適切な処理</u></p> <p style="text-align: center;">＜事務局説明＞</p> <p>(事務局)</p> <p style="text-align: center;">(質疑応答)</p> <p>(部会長)</p> <p>空き家の問題については、そのまま放置すると倒壊等の危険性が高いとされる特定危険空家の取扱いなどの多くの課題があるが、若い人の住居としての利用や地域でのコミュニティ施設としての利用など、可能な限り改修等により活用できるようにする必要がある。そのような活用を促進する指針のようなものが今後は必要かと思うが、いかがか。</p> <p>(加古川市)</p> <p>建物自体が傾いているものや屋根が落ちかけているといった危険な空き家については、加古川市空家等対策審議会にかけ、改善に向けた指導をしている状況である。また、住宅補修の一部を補助する制度も設けているし、地域で活用する場合の補助制度も設けている。現在は、危険性の高い空き家への対策に力を入れている状況であり、今後、空き家がますます増えることが予想される中、活用可能な空き家の利活用についてしっかりと検討していかなければならないと考えている。</p> <p>(委員)</p> <p>市において、自転車利用についてはどのように考えているか。原案をみる限り、自転車に関する記載がなかったので、積極的に取組を進めていくのであれば、どこかに記載しておくべきではないかと思う。加古川市は、土地が平坦で自転車の利用者も多いので、安全な自転車利用に向けた空間整備、環境整備についての視点があってもよいのではないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>原案69ページの施策「防犯・交通安全対策の推進」の交通安全教育・啓発の推進の中で、自転車に関する記載をしているところであるが、ご意見を踏まえ、どのように記載できるかも含め、あらためて検討させていただく。</p>
--	--

<p>(副部会長)</p>	<p>企業は、技術や働き方など、どのようなことに対しても最先端を求め続けないと倒産してしまう。一方、行政は最先端でなくても倒産することはなく、それほど大きな影響は受けないように思う。行政も最先端の企業に追いつく、追い越す精神で取り組んでもらいたい。</p> <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回の開催日は、8月11日(火) 午前10時から・ 場所は、青少年女性センター4階 大会議室 <p>3 閉会</p>
---------------	---